

令和2年2月12日

軽井沢町議会  
議長 佐藤 敏明 様

赤井 信夫

## 研修報告書

- 1 日時 令和2年2月4日（月）13時20分～17時
- 2 場所 上田市 上田映劇
- 3 研修内容 映画「夕陽のあと」 & 養子縁組についてトークセッション

主催 上田映劇  
登壇者 長野県 児童相談養育支援室長 樋口 忠幸 氏  
つむぎの会 会長 倉石 信彦 氏  
NPO法人 キッズドリーム理事長 市川フロスト 和美 氏

### 第一部 映画上映：13時20分～

本作は、生みの親と育ての親がそれぞれ体験する、子どもと離れる辛さとお母さんと呼ばれる喜び。彼女たちはそれらを分かち合うことはできるのか？そして、子どもの未来は？家族のあり方が多様化する時代に、改めて親子の絆を問いかけた作品。

現実社会でも後を絶たないDVや乳児遺棄、議論されることが少ない不妊治療や養子縁組制度などの問題に正面から挑む。

### 第二部 鼎談：15時35分頃～17時頃

長野県における養子縁組の現在について、登壇者それぞれの立場からの話を聞いた。行政としての立場、里親会として里親同士を連携する立場、里親を少しでも増やしたいとする立場、といった具合である。

実親との交流（里子と実親の関係、里親と実親の関係）の難しさなどが語られた。特に、『「実親の同意」について、実親が「なぜ施設ではダメなのだろう」と思うことは不思議ではない。』という、その背景には、学校教育の場で里親制度について教えられた経験がないといった課題があると、倉石氏は述べられていた。里親への委託率の向上を目指すには、制度に対する理解が非常に重要になる。また、委託された里親だけでなく、地域の里親会、里親同士で協力し合うことで解決できるケースもある。里子の将来は、制度だけでは支えられない。行政がカバーしきれない隙間を里親が積極的に埋めていく必要があるとのことだ。

## ◎考 察

これまでよくわかっていなかった里親制度について、かなり踏み込んだ部分までを知ることができた。より多くの人に知っていただくために、登壇者らは複数回にわたって里親制度やその利用の仕方についての連載を書いたり講演を開催するなど、今後も精力的に続けてゆきたいという。まずは、関心をもつていただくこと、知っていただくこと、そのために、このような活動を広く周知していくためにできるかを考え、できるかぎりの支援を行っていきたいと感じた。

以上